

カルガモ

カモ類の大部分は、オスの方が色鮮やかで、メスは地味な色をしています。しかし、カルガモはオス、メスともに、同じ色をしています。カモの中では、地味な茶色の体色で、クチバシが黒く先端が黄色になっているのが特徴です。

カモ類は、北方で繁殖し冬に日本に渡って来ますが、カルガモは一年中見られ、国内で普通に繁殖しています。繁殖期の夏季に見られるカモは、ほとんどがカルガモです。最近は市街地の公園や池でも見られるようになってきており、学校のプールにもやって来ることもあります。

田んぼ・川・池沼などで繁殖し、巣は地面に作り 5～6 個の卵を産みます。卵からかえったヒナは、すぐに歩くことができ水辺を目指します。そのため、親鳥がヒナを連れて引っ越すシーンが、テレビなどで放送されたりします。

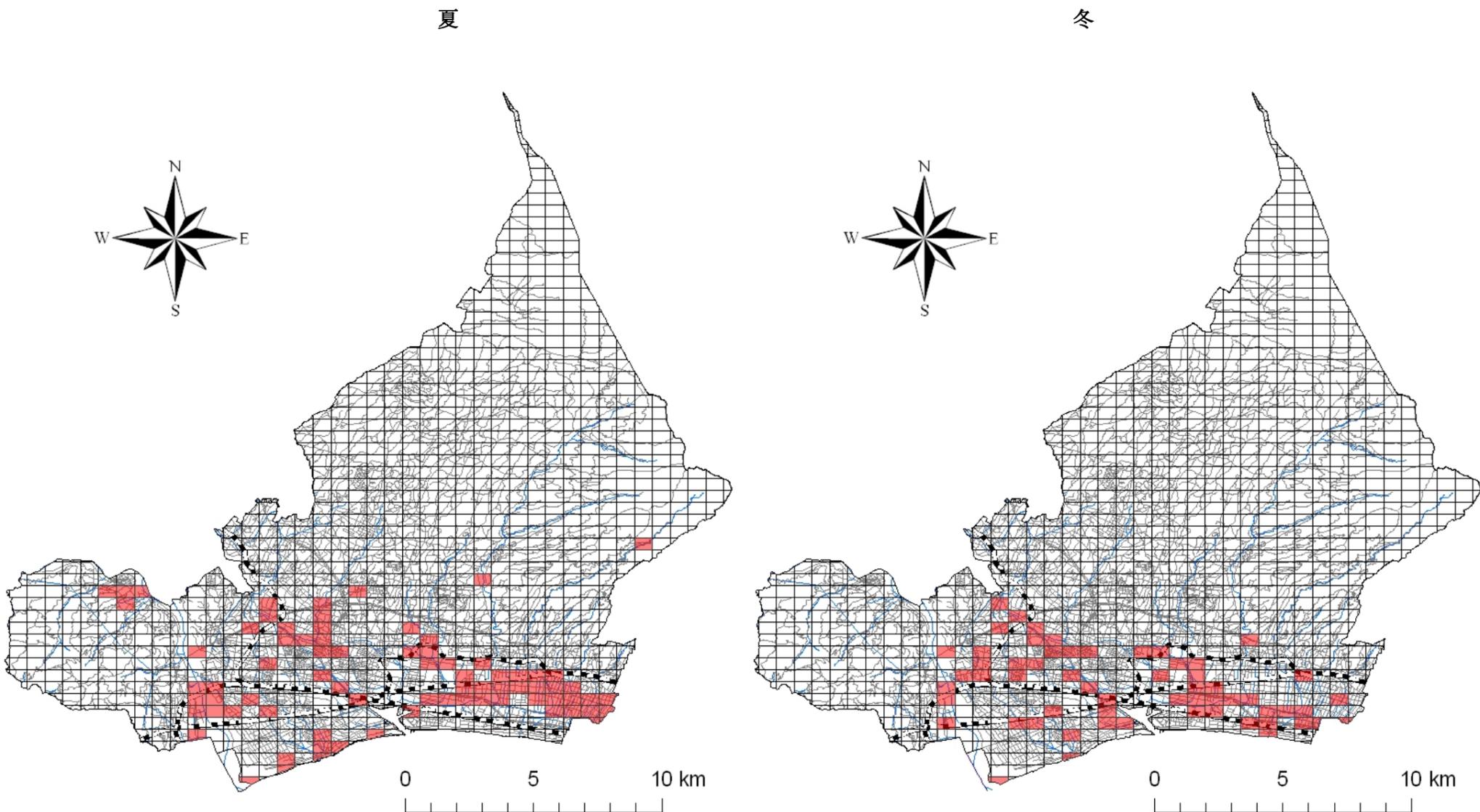
食べ物は、水草、草の実、水生昆虫などで、タカなどの外敵に襲われる心配のない夜に食事をしています。昼間は、背中に首を入れ寝ていることが多いです。



富士市の現状

富士川や潤井川、沼川、田子浦港などに普通に生息しており、内陸部の細い用水路でも見ることができます。主に川岸の草地や浮島の水田地帯で繁殖していますが、住宅地の草地や公園などで繁殖することもあります。

カルガモを確認したメッシュ



※ 平成 18 年より調査しているため、日本測地系の 2 分の 1 標準地域メッシュを使用しています。